

地球環境問題と災害への地球人間圏科学からの取り組み

地球人間圏セクションプレジデント

氷見山幸夫（北海道教育大）

地球人間圏科学セクションは東日本大震災発災前から、増大する大規模災害と深刻化する地球環境問題に統合的に取り組むことの重要性を主張し、日本学術会議地球人間圏分科会と共同でそれと関連するシンポジウムの開催や提言等を行なってきた。それらの活動と、今なお続く東日本大震災のこれまでの経緯、それに地球環境問題とそれらに対する取り組みの経緯を振り返り、地球人間圏科学の現在そして未来に向けたミッションを考える。講演の概要は次の通り。

- ・日本地球惑星科学連合には5つの科学セクションがあり、地球人間圏科学セクションはそのひとつである。
- ・地球人間圏科学(Human Geoscience)は地球環境研究と災害・防災・減災研究、それに自然科学と人文社会科学とが統合する学際的領域である。
- ・地球環境研究の課題は多岐にわたるが、Agenda 21の40項目に概ねまとめられており、地球人間圏科学はそれらの多くと関わっている。
- ・地球人間圏科学セクションは2010年、ロードマップ「持続可能な日本、アジア、世界の実現への道」を発出し、2014年にそれを微改訂した。
- ・セクションの向こう10年の重点課題は「地球人間圏が直面する諸問題の実態と改善への道筋を明らかにすること」であり、1. 教育情報ネットワークの推進、2. モニタリングネットワーク・ESD等の推進、3. 陸域持続可能性研究の推進、4. 沿岸・縁辺海域・海洋持続可能性研究の推進、5. 災害統合研究の推進が提起された。
- ・以上のプロジェクトの推進と、日本学術会議からの提言「東日本大震災を教訓とした安全安心で持続可能な社会の形成に向けて」の発出が地球人間圏科学の現在の優先課題であり、それらの成功はわが国におけるFuture Earth構想の具体化と成功に大きく寄与するであろう。